

特別支援室 活動報告

(2017-2021;5年間の記録)



宮城学院女子大学

学生相談・特別支援センター 特別支援室

目次

| | |
|------------------------------|----|
| はじめに..... | 2 |
| 特別支援室の活動 | 2 |
| 1. 支援について..... | 2 |
| 2. 利用状況の変遷 | 3 |
| 3. 主な面談内容..... | 4 |
| 4. 面談件数..... | 6 |
| 5. 合理的配慮依頼文書発行者数..... | 6 |
| 6. 卒業生進路状況..... | 6 |
| 7. 新入生への支援:事前相談実施..... | 7 |
| 8. 新入生アンケート調査 | 7 |
| 9. 研修会の実施..... | 8 |
| 10. 障害理解・啓発パンフレットの制作 | 9 |
| 11. 地域大学・機関連携協議会等への所属..... | 9 |
| 12. 特別支援室スタッフの研修 | 10 |
| 13. ピア・サポート活動 | 11 |
| 資料..... | 13 |
| 非常勤講師研修会資料..... | 14 |
| 学生相談・特別支援センター 特別支援室構成員 | 16 |
| 調査・研究活動..... | 17 |

はじめに

2016年4月、障害の有無に関わらず誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会の実現に向け「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（以下「障害者差別解消法」）が施行された。「障害者差別解消法」により、高等教育機関において障害のある学生への差別的扱いの禁止が法的義務となり、合理的配慮の提供に関しては、国公立大学及び高等専門学校においては法的義務であり、私立大学は努力義務となった。

そこで、本学においても2016年度から学生相談・特別支援センター運営委員会を立ち上げ、障害のある学生を対象とした合理的配慮の提供に関する対応について審議した。そして、学生相談・特別支援センター内に特別支援室を2016年に設置し、2017年以降は専任スタッフ2名が常駐し、本格的に支援業務をスタートした。2017年の本格スタートから、2021年で5年を迎える。5年間の活動記録として、本報告をまとめた。

特別支援室の活動

1. 支援について

学生生活や修学での困難や問題のつまずきを感じている学生の問題改善に向けて「必要な支援」を学内外と連携しながら支援している。聴覚障害、視覚障害、肢体不自由、内部障害、発達障害、精神障害等のある学生が対象となる。大学生活や修学で困っていることについて対策を一緒に考えるほか、障害や疾患などを理由に修学において特別な支援を必要とする場合には、合理的配慮について検討している。

学生支援

- 1) 個別面談
- 2) 合理的配慮に関する検討と配慮依頼文章作成
- 3) 自己理解と支援要請スキルの獲得（セルフアドボカシー）
- 4) 施設設備、情報保障
- 5) 学科教員や講義担当教員、関係部署への配慮依頼
- 6) ピア・サポーターの養成と活動実施

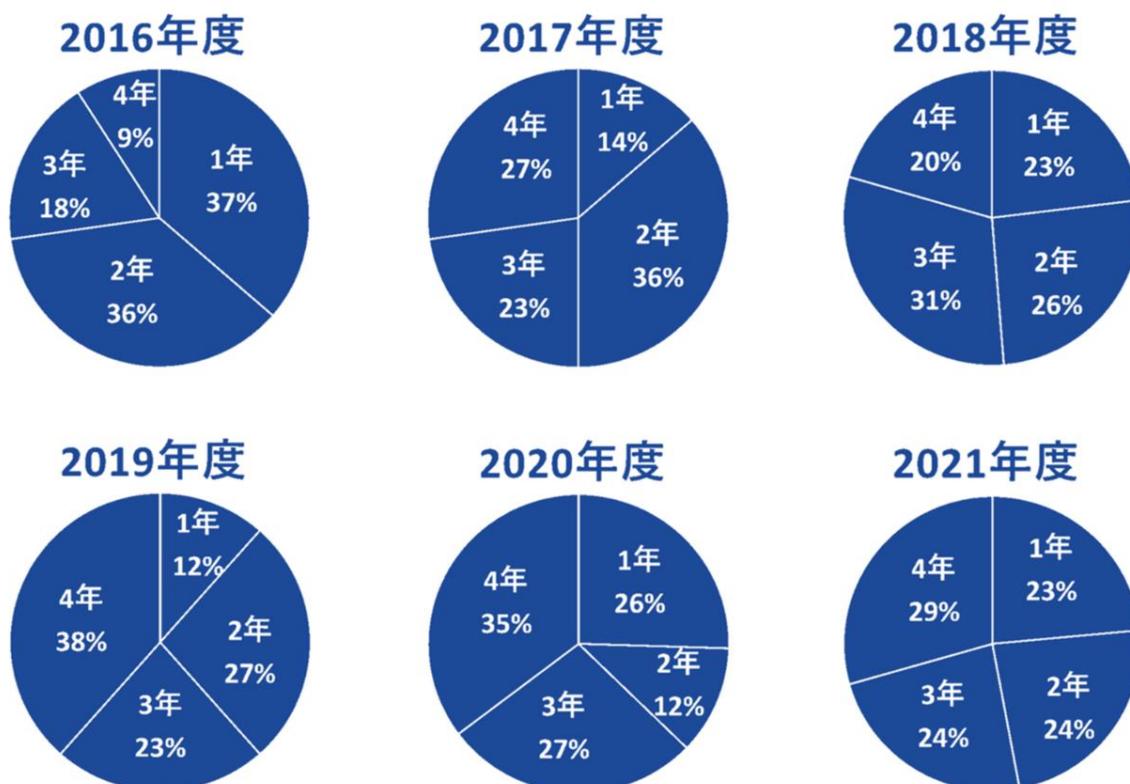
大学教職員、学生への啓発

- 1) 教職員への研修会、コンサルテーション
- 2) 支援が必要な学生についての共通理解と連携
- 3) 外部機関・団体との連携

2. 利用状況の変遷

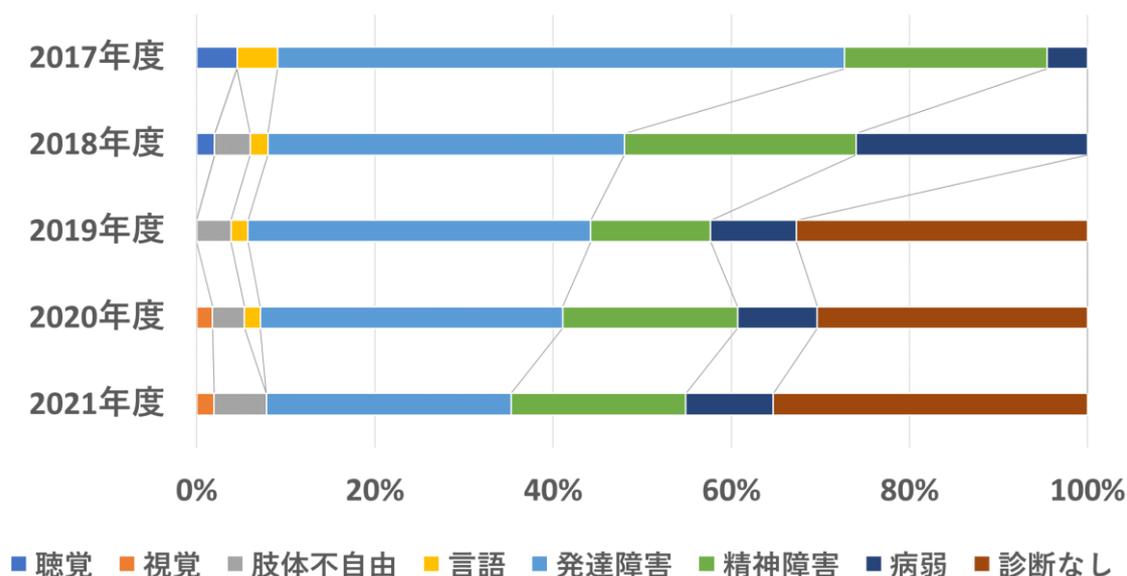
利用学生数

実数ではなく、割合による集計を示す。休学中の利用者は含まない。



障害種別

実数ではなく、割合による集計を示す。休学中の利用者は含まない。



*2019年度より「診断なし」の学生数を集計している。診断なしは、診断はついていないものの修学に関する困り感から支援室を利用していた学生数であるが、そのほとんどが発達障害特性に関連した困り事(グループ学習の苦手さ、スケジュール管理の苦手さ等)を主訴とした利用であった。

3. 主な面談内容

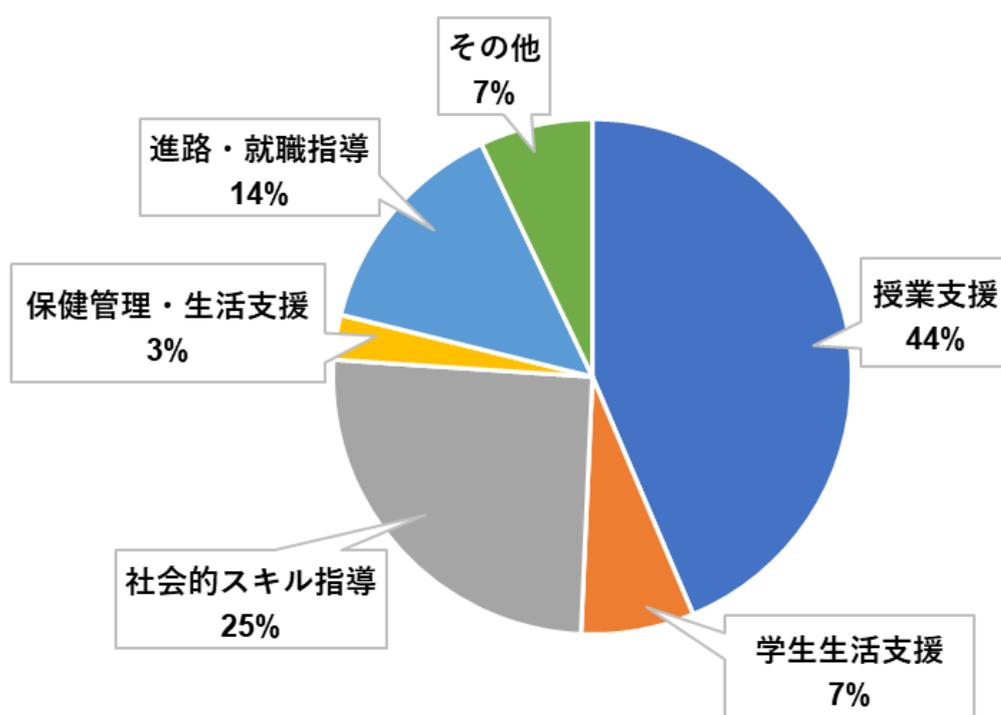
どのような内容について面談をしているのか分類した。分類項目は、日本学生支援機構「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」¹を参照した。学生によって複数の面談内容を扱っている場合もあるため、合算での割合になる。

- ① 授業支援 (試験時間延長・別室受験、配慮依頼文書の配布など)

¹ 日本学生支援機構 障害のある学生の修学支援に関する実態調査
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/index.html

- ② 学生生活支援（居場所の確保、個別支援情報の収集、情報取得支援など）
- ③ 社会的スキル指導（自己管理指導、対人関係配慮、日常生活支援）
- ④ 保健管理・生活支援（医療機関との連携など）
- ⑤ 進路・就職指導（キャリア教育、障害学生向け求人情報の提供など）
- ⑥ その他

2021年度面談内容の割合



*2020年度～2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染症対策をとりながらの活動が求められた。主に電話相談や zoom による面談、メール対応を行った。

4. 面談件数

右の表は、学期および年間で集計した面談件数を示す。2017～2020 年度は、20 分以上対応した面談件数である。2021 年度は対面授業再開に伴い、感染症対策を徹底しながらの面談実施が求められた。対面面談においても、20 分以内の制限を設けて短時間で実施することが多くなった。そのため、2021 年度分は 20 分未満の短時間対応を含めて算出している。

| | 前期 | 後期 | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|
| 2017年度 | 264 | 337 | 601 |
| 2018年度 | 423 | 308 | 731 |
| 2019年度 | 573 | 407 | 980 |
| 2020年度 | 196 | 268 | 464 |
| 2021年度 | 294 | 264 | 558 |

2019 年度までは面談件数が増加傾向にあったが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症予防のため全面遠隔授業による実施となった影響から面談件数が減少した。詳細は、次の「5. 合理的配慮依頼文書発行者数」のところでも説明するが、合理的配慮依頼文書の発行件数に関わって面談件数が変動しているといえる。

5. 合理的配慮依頼文書発行者数

障害のある学生が他の学生と平等に教育を受ける権利を享有・行使できるように、大学が必要かつ適当な変更・調整を行うために、修学にあたり配慮が必要な学生に対して、合理的配慮依頼文書を発行した。

2019 年度までは発行者数が増加傾向にあった。しかしながら、2020、2021 年度はコロナ感染対策のため遠隔授業が中心になり、合理的配慮依頼文書の発行者数は例年より少なくなった。2020 年度前期はすべて遠隔授業での実施となり、合理的配慮依頼文書の発行は行わず、個別対応とした。

6. 卒業生進路状況

支援室を利用していた 4 年生のうち、支援室で就労支援を受けていた卒業生数とその進路状況を示す。進路選択にあたり、修学と就職準備を同時並列的に行うことが困難だった学生も多く、在学時は修学に専念して取り組む学生も多かった。そのため、就職準備は、4 年生

後期終了後から始めたり、卒業後はすぐに就職せず就労移行支援事業所への通所を考えた
りする者もいた。

・2019 年度

10 名(就職 8、大学院進学 1、就労準備 1)

・2020 年度

10 名(就職 6、大学院進学 1、就労移行支援事業所 1、就労準備 2)

・2021 年度

9 名(就職 5、就労移行支援事業所 2、就労準備 2)

*就労移行支援事業所との連携

- ・仙台市内就労移行支援事業所の把握および情報交換
- ・在学中からの就労移行支援事業所への見学引率や事前共有

7. 新入生への支援:事前相談実施

2019 年度入学生より、入学手続き時に、「障害のある学生の修学支援について(事前相談
申し込み)」を送付している。障害や疾患などを理由に、合理的配慮を希望していたり、修学に
不安があったりする場合に、入学前の3月に事前相談を実施し、新入生や保護者、学科と情報
を共有している。2019 年:3 名、2020 年:6 名、2021 年:4 名の事前相談を実施した。

8. 新入生アンケート調査

毎年 4 月に行われる新入生ガイダンスにおいて、学生相談・特別支援センターの利用方法を
説明している。その際に、「センター利用案内」と「発達障害って何ですか?」のパンフレットを配
布し、相談窓口の案内と発達障害への理解・啓発を行っている。

同時に、新入生学生相談カードへの記入を依頼し、集計している。精神健康に関わる 10 項
目(K10 精神的健康調査項目)と、発達障害関連特性による大学生生活の困り感に関する 10

項目の、計 20 項目から作成している。リスク学生の把握とともに、支援室に来室した際の参考資料として活用することを目的としている。

<発達障害特性による大学生活困り感に関する項目>²

日頃どのようなことで困っているのかについて、困っている程度に応じて「0.困っていない～3.とても困っている」の 4 段階で回答。

| | |
|----|----------------------------------|
| 1 | 忘れ物が多くて困る |
| 2 | 片付けられなくて困る |
| 3 | 課題や仕事が締め切りに間に合わなくて困る |
| 4 | やらなければいけないことが複数あるときに、うまくこなせない |
| 5 | 進学やクラス替えのときに、新しい友人を作るのは苦手だ |
| 6 | グループ活動では居心地が悪くて困る |
| 7 | 他の人がどんなことを考えているのかを想像することが苦手だ |
| 8 | とても嫌いな特定の音や匂いや肌ざわりなどがあって、困ることがある |
| 9 | 他の人たちのように、うまく会話ができない |
| 10 | 暗黙のルールがわからなくて困ることがある |

※1～4 ADHD 関連項目、5～10 ASD 関連項目になっている

9. 研修会の実施

教職員や学生を対象の研修会を通して、合理的配慮や障害への理解・啓発活動を行った。

【FD 研修会】

2017 年 10 月 「発達障害のある学生の理解と支援

2017 年 7 月 「障害のある学生への理解と支援 -受け入れ体制の整備-

2019 年 2 月 「合理的配慮が必要な学生の就労支援」

² 高橋知音『発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック 大学・本人・家族にできること(学研のヒューマンケアブックス)』学研教育出版 2012 年。

【SD 研修会】

2017年12月「発達障害のある学生の理解と支援」

2019年6月「合理的配慮が必要な学生の就労支援」

【非常勤講師研修会】

2019年3月「特別支援室の業務と発達障害のある学生支援」

2021年3月「障害のある学生への合理的配慮」

10. 障害理解・啓発パンフレットの制作

障害理解・啓発活動の一環として、パンフレット等の作成・配布を行った。発達障害って何ですか？は、毎年度新入生全員に配布した。教職員のためのガイドブックは、非常勤講師説明会の際に配布した。また、これら資料は特別支援室ホームページにも掲載している。

・発達障害って何ですか？

宮城学院女子大学で学ぶ皆さんへ
理解と配慮のお願い



・教職員のためのガイドブック

発達障害のある学生—理解と対応—



11. 地域大学・機関連携協議会等への所属

地域の近隣大学や、障害学生支援関連の協議会等に所属しており、研修会への参加を通して専門的知識の更新や情報交換を行うことで、特別支援室での活動に役立ててきた。

若者こころの支援会議(2019年～)

在仙大学障害学生支援大学間ネットワーク情報交換会(2019年～)

JOINUSS:障害学生支援相互協力協議会(2018年～)

みやぎ学生相談連絡協議会(2018年～)

AHEAD JAPAN:一般社団法人 全国高等教育障害学生支援協議会(2017年～)

12. 特別支援室スタッフの研修

専門的知識や技能の習得・更新に努め、各種団体主催の研修会に参加した。2020年度以降はオンライン開催が増え、全国各地で行われた研修会等に参加することができた。

【2017年度】

- ・仙台市北部発達相談支援センター 高校情報交換会
- ・全国高等教育障害学生支援協議会 第3回大会
- ・JASSO 全国障害学生支援セミナー「体制整備支援セミナー」
- ・JASSO 全国障害学生支援セミナー「専門テーマ別セミナー」
- ・JASSO 障害学生支援実務者育成研修会(基礎プログラム)

【2018年度】

- ・全国高等教育障害学生支援協議会 第4回大会
- ・JASSO 障害学生支援実務者育成研修会(応用プログラム)
- ・JASSO 全国障害学生支援セミナー「専門テーマ別セミナー(発達障害就労支援)」

【2019年度】

- ・東北学院大学 多様な性をもつ学生の心理的支援について
- ・東北大学 NPO セミナー
「性の多様性(SOGI)―当事者とアライの思い―『LGBTQ+って何?～現役大学生のゲイとアライに色々聞いてみた～』」
- ・全国高等教育障害学生支援協議会 第5回
- ・JASSO 障害学生支援実務者育成研修会(基礎プログラム)

- ・JASSO 心の問題と成長支援ワークショップ
- ・JASSO 障害学生支援理解・啓発セミナー
- ・JASSO 全国キャリア教育・就職ガイダンス
「障害のある学生のキャリア教育・就職支援について」
- ・JASSO 障害学生支援専門テーマ別セミナー「建設的対話」

【2020 年度】

- ・全国高等教育障害学生支援協議会 第 6 回（オンライン）
- ・東北大学×早稲田大学 GS センター
「STUDENTS × UNIVERSITY × GENDER and SEXUALITIES 私たちはジェンダー・セクシュアリティにどう関わっていけばよいのか。」（オンライン）

【2021 年度】

- ・全国高等教育障害学生支援協議会 第 7 回（オンライン）
- ・JASSO 障害学生支援理解・啓発セミナー（オンデマンド）
- ・北海道大学高等教育研修センター
「発達障害のある学生の理解と対応～コロナ禍における修学支援～」（オンライン）
- ・東京大学バリアフリーシンポジウム
「高等教育における『繋がる支援』：谷間のない支援を目指して」（オンライン）

13. ピア・サポート活動

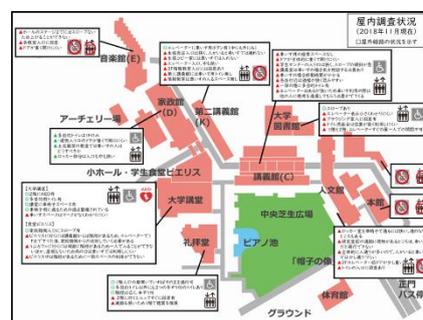
特別支援室開室 3 年目の 2018 年に、ピア・サポーター養成活動を立ち上げた。当時、ノートテイクを必要とする学生が在籍していたこともあり、講義内容の情報保障が必要であった。しかし、特別支援室人員（主任・コーディネーター、計 2 名）だけでは限界があったこと、専門的な講義内容ではスタッフよりも学生の方が理解しやすく相手にも伝えやすいことから、講義内サポートは学生と協働的に行う方がよいだろうと判断した。さらに、情報保障だけでなく、ピア・サポーターが特別支援室の利用学生の良き理解者の一人となれるよう、障害に対する理解促進を啓発する側面からも、学生と協働的に活動するメリットは大きいと考えた。そこで特別支援室と協働するピア・サポーターを募集し、現在まで活動している。活動は学内ボランティアとして

位置づけ、無報酬で行っている。これまでの活動については、2020 年度に論文化した³。

2022 年度からは、全学的なボランティア団体等ができてきた背景から、ピア・サポート活動は障害に対しての理解促進を啓発する活動を重点的に行っていくこととした。そのため、ピア・サポーターから「支援室サポーター」へ名称変更して活動を行っている。

2018・2019 年度の活動記録

| 2018年度研修・活動内容 | | 回数 | 人数 | 2019年度研修・活動内容 | | 回数 | 人数 |
|---------------|-----------------------------|----|----|---------------|-----------------------------|----|----|
| 研修 | ピア・サポーターについて | 2 | 26 | 研修 | ピア・サポーターについて | 2 | 17 |
| | 障害支援について (障害の特性・理解、守秘義務) | 1 | 22 | | 障害支援について (障害の特性・理解、疑似体験) | 2 | 13 |
| | コミュニケーションスキル (傾聴) | 2 | 34 | | コミュニケーションスキル (手話) | 6 | 48 |
| | 車椅子の使い方講座 | 1 | 14 | | 車椅子の使い方講座 | 2 | 14 |
| | ノートテイク研修会 | 3 | 31 | | 学内講座・講演会への参加 | 4 | 16 |
| | 他大学との合同研修会 | 2 | 17 | | 他大学との合同研修会 | 1 | 11 |
| 実践活動 | バリアフリーマップ (調査) | 5 | 44 | 実践活動 | バリアフリーマップ (調査・作成) | 6 | 46 |
| | コミュニケーション支援 (教材作成) | 2 | 25 | | 多様性について (意見交換、ステッカー作成) | 10 | 29 |
| | ランチ交流会 | 5 | 37 | | 履修相談会 | 3 | 18 |
| | 全体会 | 1 | 12 | | 課題相談会 | 2 | 25 |
| | | | | | ランチ交流会 | 5 | 36 |
| | | | | | 全体会 | 2 | 14 |

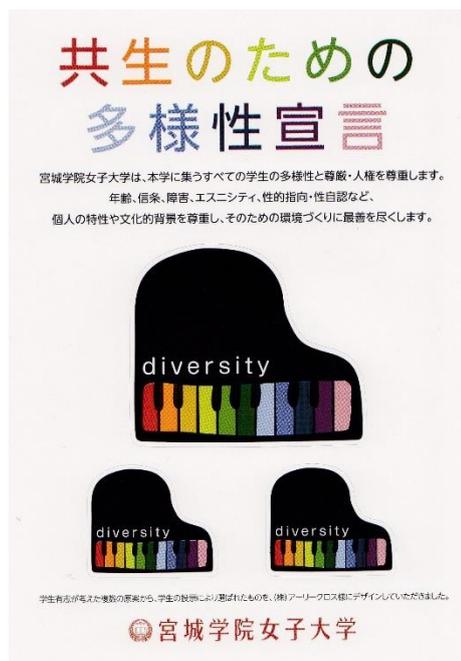


車椅子の使い方を練習している様子 (写真左) と、作成したマップ (右図)

³ 金・蒔苗・梅田 (2020) 大学における障害学生支援の取り組み:ピア・サポート活動と課題を中心に, 宮城学院女子大学研究論文集, 131, 61-74.

ステッカーデザインの作成

2020年共生のための多様性宣言⁴の発表に伴い、ピア・サポーター内で宣言内容を振り返り解釈しながら、様々な意見交換して理解を深めた。特に、多様性とは何かについて、フローチャートを用いて言葉で整理したほか、多様性の持つイメージやその想いを視覚的に表現しながら、話し合いを深めた。そこからピア・サポーターの意見を融合させながら複数のデザインを考案し、その後、学生投票を経てステッカーデザインが決定された(右図)



資料

以下、記録として各種資料を掲載する。

⁴ 「宮城学院女子大学 共生のための多様性宣言」宮城学院女子大学は、本学に集うすべての学生の多様性と尊厳・人権を尊重します。年齢、信条、障害、エスニシティ、性的指向・性自認など、個人の特性や文化的背景を尊重し、そのための環境づくりに最善を尽くします。

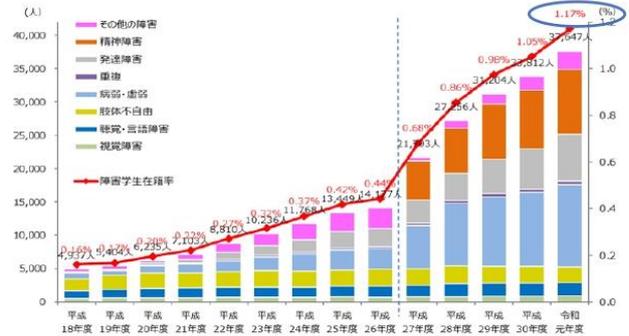
非常勤講師研修会資料

2021年度度非常勤講師研修会

障害のある学生への合理的配慮

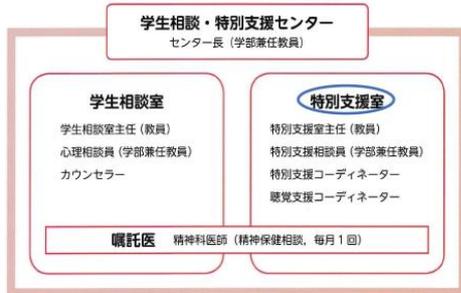
2021. 3. 23.
学生相談・特別支援センター
特別支援室 主任
金 彦志 (キム オンジ)

障害学生数と障害学生在籍率の推移



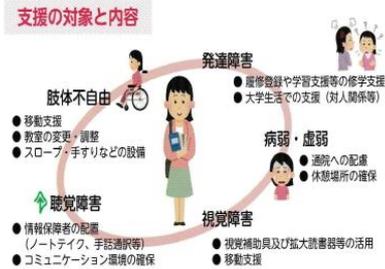
独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)
令和1年度 (2019年度) 障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書 (2020.3.)

学生相談・特別支援センター



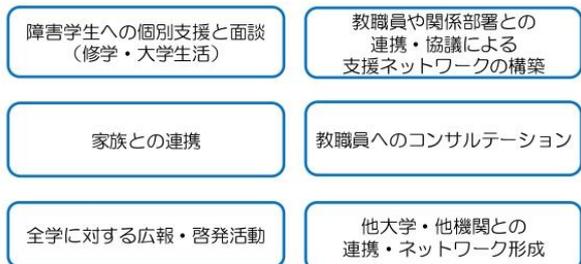
<学生相談・特別支援センターパンフレット参照>

学生相談・特別支援センター



<学生相談・特別支援センターパンフレット参照>

特別支援室の支援活動



本学の支援状況

- 障害種類
肢体不自由、弱視、病弱 (てんかん)、発達障害 (アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害など)、精神障害 (強迫性障害、パニック障害、社会不安障害) など
- 学生への主な支援内容
 - ✓ 合理的配慮依頼文書発行
 - ✓ 学生生活支援 (スケジュール管理、体調管理)
 - ✓ 修学状況の確認 (レポート・テスト支援)
 - ✓ ピア・サポーター養成・活動支援
 - ✓ 進路決定・就労移行支援

3. コロナ禍での面談形式
- ・ZOOMによるオンライン面談、電話、メールでの面談
 - ・後期からは、感染予防対策しながら一部対面面談実施中

4. オンライン授業に関する支援

- ①オンライン授業のメリット
- ・通学の負担、教室で授業を受ける負担がなくなった。
 - ・授業の内容を自分のペースで見直す・聞き直すことができる。
 - ・資料がアップされるので何度も確認できる
- ②オンライン授業のデメリット
- ・科目ごとにオンデマンド、リアルタイムによる双方型など形式が異なり、使用するツールも違うことで混乱してしまう。
 - ・毎回の課題提出の把握、確認、スケジュール管理ができない。
 - ・毎日の膨大な情報から、必要な情報を取得・管理することが難しい。
 - ・自己管理が苦手な学生の場合、自宅で授業を受けることで、生活リズムが崩れる、場面の切り替えがうまくできない。

合理的配慮とは

- ・すべての学生が同一で質の高い教育を受けることができるための必要な「調整及び変更」
- ・過度な負担を課さないものという
- ・合理的配慮は大学の状況により異なる

障害学生のニーズの理解

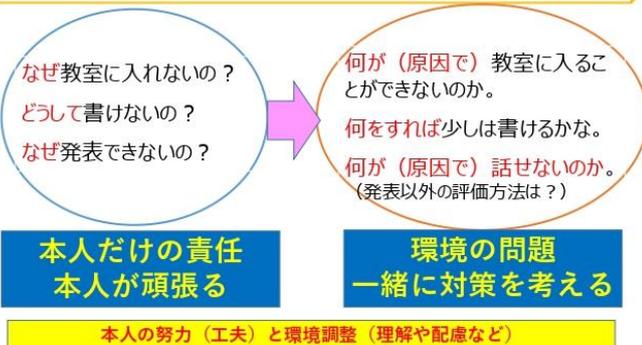
大学教育・授業の特性

多様な選択肢の中から支援方法を選択

合理的配慮の考え方：
教育の本質（目的）を変えずに方法を変える

発達障害のある学生への支援

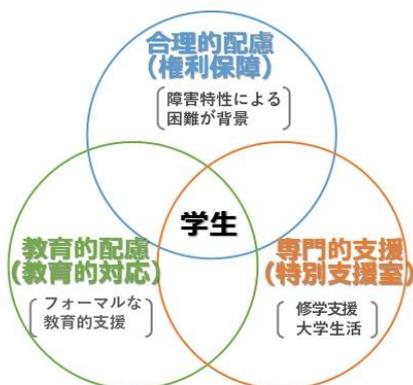
なぜ？どうして？ から 何が？何をすれば？に



困っていること → 具体的な対応

| | |
|---------------------------------|----------------------------|
| ①気が散りやすく、話を聞いていないことがある | ①重要な情報は板書やプリントで提示 |
| ②緊張すぎて自分の意見が言えない | ②授業後に課題や感想文を提出させるなどの代替 |
| ③グループ活動で思ったことを口にしてしまう | ③議論のルールを決める ：挙手をして順番に発言 |
| ④授業中、不安定な状態になる（聴覚敏感でノイズに絶えられない） | ④途中退席の許可 ：一時退室を認める |
| ⑤期限までにレポートを提出できない | ⑤提出期限の延長 |

<これからの支援について>



参考文献

1. 熊本大学アマビエ研究推進事業（2021）「発達障害学生のオンライン授業におけるニーズや困り感に関する調査結果」
2. 宮城学院女子大学学生相談・特別支援センター（2016）「教職員のためのガイドブック」
3. 日本学生支援機構（2019）「合理的配慮ハンドブック－障害のある学生を支援する教職員のために－」
4. 日本学生支援機構（2020）「令和1年度（2019年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書」

学生相談・特別支援センター 特別支援室構成員

2016年度

松浦 光和(センター長)

梅田 真理(主任、学部兼任教員)

横澤 麻子(聴覚障害学生支援コーディネーター、外部専門員)

2017年度～2018年度

木野 和代(センター長)

金 彦志(主任)

富永 大悟(コーディネーター)

梅田 真理(特別支援相談員、学部兼任教員)

横澤 麻子(聴覚障害学生支援コーディネーター、外部専門員)

2019年度

木野 和代(センター長)

金 彦志(主任)

蒔苗 詩歌(コーディネーター)

梅田 真理(特別支援相談員、学部兼任教員)

2020年度～2021年度

松浦 光和(センター長)

金 彦志(主任)

蒔苗 詩歌(コーディネーター)

梅田 真理(特別支援相談員、学部兼任教員)

調査・研究活動

大学における障害学生支援についてはまだまだ発展途上であることから、特別支援室での活動を学会発表や論文化することで、活動の振り返りつつ支援充実に努めた。

<発表論文>

金彦志(2018)大学の障害学生における合理的配慮提供に関する検討: 教員アンケート結果を中心に, 宮城学院女子大学研究論文集, 127, 35-48.

富永大悟・金彦志・梅田真理(2018)大学における障害学生支援の取り組み: 支援ニーズの検討, 宮城学院女子大学研究論文集, 127, 49-60.

金彦志・蒔苗詩歌・梅田真理(2020)大学における障害学生支援の取り組み: ピア・サポート活動と課題を中心に, 宮城学院女子大学研究論文集, 131, 61-74.

<学会発表>

金彦志(2017)韓国の障害学生支援センターにおける現状と課題ー大学の障害学生支援センターの役割と機能を中心にー, 日本 LD 学会サブ大会(新潟), ポスター発表

金彦志・富永大悟・梅田真理(2018)大学における合理的配慮提供に関する支援体制の検討ー発達障害のある学生を中心にー, 日本 LD 学会第 27 回大会(新潟), ポスター発表

富永大悟・金彦志・梅田真理(2018)大学における学習障害学生の指導支援と合理的配慮, 日本 LD 学会第 27 回大会(新潟), ポスター発表.

金彦志・富永大悟・梅田真理(2018)女子大学における障害学生支援の取り組みⅠー学内支援体制の整備を中心にー, 日本特殊教育学会第 56 回大会(大阪), ポスター発表.

富永大悟・金彦志・梅田真理(2018)女子大学における障害学生支援の取り組みⅡー支援のニーズから考えるー, 日本特殊教育学会第 56 回大会(大阪), ポスター発表.

金彦志・梅田真理・富永大悟(2019)大学における障害学生支援の取り組みー発達障害学生への就労移行支援を中心にー, 日本特殊教育学会 57 回大会(広島), ポスター発表.

金彦志・蒔苗詩歌・梅田真理(2021)コロナ禍における障害学生支援ー特別支援室の取り組みー, 日本 LD 学会第 30 回大会(Web 開催), ポスター発表.

宮城学院女子大学 学生相談・特別支援センター

<https://www.mgu.ac.jp/campus/support/>



特別支援室

<https://www.mgu.ac.jp/campus/support/shien/>



〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9丁目1番1号